

舞鶴市地域公共交通会議における地域公共交通活性化・再生総合事業<鉄道関係>

事業期間
20~22年度

「人・環境にやさしい、交流と定住を支える公共交通体系の構築」を基本コンセプトとし、人と環境にやさしい公共交通機関の充実、交流を促進する交通体系の整備、市民生活における交通手段の確保を図る。

【目標】鉄道利用者数：18年度・1,124千人 → 22年度・1,216千人

舞鶴市公共交通利用促進協議会

舞鶴市、京都府、JR西日本(株)福知山支社、北近畿タンゴ鉄道(株)、京都交通(株)、舞鶴観光協会、自治会、道路管理者、近畿運輸局など

事業の概要(20年度) ※数字は事業費

①まいづる公共交通利用エコポイントプロジェクト事業

668千円

公共交通利用促進、温室効果ガス排出抑制のため、鉄道・路線バスを利用するたびにポイントがたまる事業を実施。端末機が設置してあるJR西舞鶴駅、東舞鶴駅及びKTR西舞鶴駅、路線バス車内で利用でき、ポイントが貯まれば、舞鶴観光協会商品券に交換又は「ゆずの苗木」の植栽活動に参加可能。



②JRポケット時刻表、路線バスマップ作成事業

855千円

- 舞鶴・京都大阪間の特急時刻早見表をポケットサイズ化した時刻表(2万部)作成
- 市内のバス・KTR運行エリアと路線バスの時刻表及びKTRの西舞鶴駅発着時刻表を掲載した路線バスマップを6万部作成(内約4万部を新聞折込み)、市内の約35,000世帯や事業所に配布



ポケット時刻表



路線バス&KTR時刻表・マップ

③KTRイベント列車市民号運行支援事業

172千円

市民又は市内通勤・通学者を対象とし、JR東舞鶴・西舞鶴駅を発着する貸切列車を実施

<20年度実績>

- KTR 1回
 - 2月・久美浜温泉 94名
- JR 3回
 - 5月・姫路菓子博 107名
 - 10月・道後温泉 70名
 - 12月・佐津温泉 101名



初年度
の効果

利便性向上(インセンティブ)

○「エコポイントプロジェクト」は商品券交換やエコに配慮した柚子の苗木植栽など付加価値をつけ、地元へ貢献できる事業として取り組みができた。PRを続ける中で鉄道利用者に周知ができ、鉄道利用の啓発に結びついた。

- ・登録人数・・・約1,300人
- ・ポイント交換者・・・延1,431人(商品券1,385人、植栽46人)
- ・鉄道による利用回数延べ約24,000回

○地域独自の事業として、

- ・市営駐車場の利用者が特急・新幹線利用の場合、切符の購入金額に応じて駐車料金を無料化
 - ・鉄道・高速バス利用者に限り1日最大300円の駐車料金で利用可
- を実施しており、市民や利用者に浸透しつつある。

他モードとの連携による利用促進

- ・バス利用促進事業として周遊観光バス運行支援事業も実施。市内の観光施設等を安価で定額(土日祝日は乗降自由となる1日乗り放題きっぷ舞鶴かまぼこ手形1,000円)で移動でき、観光施設等の入場料が割引になる特典があるループバスを運行した。
- ・課題としては鉄道とバスの接続の利便性を高めるなど両者が連携しそれぞれの役割を発揮し、利用者が鉄道とバスの乗継ぎ利用を促してしていくことが必要である。

観光利用の促進

- ・イベント列車は、14年ほど前から取組んでおり、毎年主に「春・秋・冬」に実施し、各回約100人参加があり、参加者は主に中高年齢層でリピーター客が多い。
- ・事業を継続することにより、普段鉄道を利用しない市民にも利用いただき、鉄道を身近に感じていただくように促しており、翌年のイベントを期待する声も多い。
- ・平成20年度でJR東舞鶴・西舞鶴駅の旅行業を廃止されることになり、今後は新たに旅行会社の選定が必要になった。

利便性向上(乗り継ぎ)

マップについては、舞鶴市全世帯での配布のほか、駅や公共施設、観光施設等でも配布され、利用者からの問い合わせが多く、利便性が浸透し、市民や観光客にも効果が現れた。

次年度
以降

H20年度(H18年度対比)は、鉄道利用者数が約11%の増今後利用促進を図っていく

H20年度(H18年度対比)においては、鉄道122千人(110.8%)の増、バス74千人(110.6%)の増となっており、観光客も9.3万人(107%)増加となり、公共交通機関への関心が高まり効果が図られた。今後も引き続き利用促進を図っていく。